

複言語キッズの「わたし語」を育てる

5つの

ポイント



「わたし語」は、十人十色の「ことばのとんぼ玉」

「わたし語」は、これまで子どもたちが自分の中に取り入れてきた複数の言語が、まるで「とんぼ玉」のように溶け合ってきたものです。その子ならではの「わたし語」の色と模様は成長し、変化しつづけます。次の5つのポイントを心に留めて、複言語キッズの「わたし語」がもっと輝けるように働きかけ、見守っていきましょう。

ポイント

1

子どもの「わたし語」を尊重する

「わたし語」の中の言語レパトリーのあり方は実にさまざまで、親子でも異なります。みなさん自身の「わたし語」や理想の「わたし語」にしばられずに、子ども自身の「わたし語」を見つめましょう。

【⇒p.50】



ポイント

2

「家族のことばの方針」を考える

「家族のことば」として、家庭内に、どのことば（言語）をどう取り入れるかについて、家族で話し合い、方針を共有しましょう。その方針は、子どもの成長や家族の状況の変化に応じて、柔軟に見直していきましょう。 【⇒p.54】



ポイント

3

「できること」を見つける

どんな小さなことでも、「日本語でできること」を見つけて集めましょう。「できること」に親子で気づき、一緒に喜び、それを肯定的に取り上げることは、「わたし語」の中に日本語が息づいていることを、子ども自身が見出すことにつながります。

【⇒p.58】



ポイント

4

「見えにくい力」にも目を向ける

子どもたちが日本語で何かをするときの積極的な姿勢や寛容な気持ち、小さい気づきや好奇心など、「見えにくい力」にも意識的に目を向けましょう。

【⇒p.64】



ポイント

5

子どもの「つなぐ力」を信じる

異なるものを受け入れる寛容で柔軟な態度が育まれることで複言語キッズは、さまざまな場面で「境界」を越え、人と人、人と異文化などを「つなぐ力」を育んでいます。その力はすぐには目に見えるものではないかもしれませんが、信じて見守りましょう。

【⇒p.68】

